



国際協力

No.51 2017.4.1

JICA駒ヶ根

青年海外協力隊帰国隊員らが 阿部知事・県議会議員に帰国報告

2月17日、帰国隊員が、県職員対象の「JICAボランティア帰国隊員活動報告会」で帰国報告をし、続いて阿部長野県知事を表敬訪問しました。青年海外協力隊員の松田香菜絵さん(山ノ内町出身、ルワンダ/野菜栽培)、小山実央さん(長和町出身、カンボジア/小学校教育)、日系社会青年ボランティアの古川裕子さん(塩尻市出身、アルゼンチン

ノ日系日本語学校教師)の3名が、途上国での生活や活動の様子を報告し、知事からは「途上国での2年間の活動を終えて帰国された皆さんの意見はとても貴重。帰国後は経験を長野県のために活かして欲しい。」とのお言葉がありました。

また、3月10日には、1月に帰国したばかりの長野市出身の寺尾美菜子さん(カメルーン/小学校教育)と池田麻衣さん(ガーナ/理学療法士)が、長野県議会国際協力促進議員連盟に帰国報告会を行いました。当日は議会中でしたが、約35名の議員の方々が聴講し、報告会終了後も発表者お二人との会話が尽きない様子でした。



阿部知事への表敬訪問



お二人で議会報告会

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2016

テーマ「未来の地球のために ～私たち一人一人にできること～」

このエッセイコンテストは、次の世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的として実施しています。

今年で中学生の部は21回、高校生の部は55回を数え、中学生の部50,727点、高校生の部30,087点、総数80,814点ものご応募をいただきました。

長野県からは、中学生の部で1,395点、高校生の部で1,567点もの応募があり、個人賞16点、学校賞16校が受賞しました。

昨年よりも応募数が増えて、皆さんの関心が高まっていることを感じます。

来年も、中学、高校生の皆さんの感性豊かな作品が寄せられることを楽しみにしています。

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所 所長賞の二人



赤穂中学校3年眞島さん、藤澤校長



長野高等学校1年高野さん、大井校長

受賞者一覧

中学校の部	所長賞	駒ヶ根市立赤穂中学校 眞島皓成さん「民際」
	佳作	信州大学教育学部附属松本中学校 太田美由紀さん「心理学者フロイトから学ぶ」 信州大学教育学部附属松本中学校 橋本知音さん「身近な国際交流」 茅野市立東部中学校 矢崎麻記さん「石巻との交流を通し、今私にできる事」 長野県屋代高等学校附属中学校 柳原百花さん「くしゃくしゃの紙から」
	OB会会長賞	松本市立旭町中学校 宮本菜々子さん「未完成パズル」 飯田市立高陵中学校 下井優芽さん「平等に教育が受けられる世界へ」
	特別学校賞	駒ヶ根市立赤穂中学校
高校生の部	所長賞	長野高等学校 高野篤郎さん「発展途上国のために」
	佳作	上田高等学校 秋山かな子さん「空の下」 下伊那農業高等学校 高野佐栄理さん「未来を守る私達」 長野商業高等学校 宮澤未来さん「グローバル目標」達成に向けて 松川高等学校 田代直己さん「教育は礎」
	OB会会長賞	篠ノ井高等学校 小宮山友海さん「時と場所を越えて～まだ見ぬ人のために～」 篠ノ井高等学校 倉島わかかなさん「『水』の世界常識」 上田高等学校 金井風佳さん「私の考える未来」 上田高等学校 小山千蓮さん「世界中が平等になるために」 松川高等学校 木下峻さん「愛と平和と私」
	特別学校賞	下伊那農業高等学校・長野高等学校・松川高等学校
学校賞	佐久長聖高等学校・篠ノ井高等学校・上田高等学校	

シリーズ 世界から、地域で活躍！ 信州で活躍する元協力隊員に聞きました。

今回は、協力隊同士のご夫婦で
長野県で農業をされている
OB・OGの方々です！



小布施町在住
井田 彩可さん
(旧姓：宮里)

平成23年度2次隊
派遣国：ガーナ
職種：保健師
出身：大阪府



井田 泰介さん

平成21年度4次隊
派遣国：ブルキナファソ
平成23年度0次隊
派遣国：ボツワナ
職種：コンピュータ技術
出身：北海道



Q1：協力隊員となったきっかけは？

大学の時に隊員OBの方から協力隊についての話を聞き、協力隊っていいなーって、心のどこかに隊員になりたいという思いがありました。大阪で保健師として働き、10年という節目の年に通勤電車の中で、隊員募集のポスターを発見!!忘れかけていた思いがよみがえり、応募しようとして心を決めました。



乳幼児健診で、子どもの体重を測定

Q2：派遣国での活動や生活はいかがでしたか？



同僚の子どもちゃん

水も電気もない、エアコンもない、日本食もないなどのないないづくしの生活で半年間はつらくなることも多かったです。でも、現地の人達と生活を共にすると助けてくれるのは現地の人。子どもたちと日本の歌を歌ってダンスしたり、同僚と一緒にごはんを作って食べたり共に生活しているうちに、第二のふるさとと思えるくらい大切な場所になりました。

Q3：現在の活動について教えてください。

協力隊で自給自足の生活をしている現地の人たちに触れて、農のある暮らしっていいなーと思い、夫と一緒にぶどう作りを始めました。夫も協力隊OBで、駒ヶ根訓練所に入校したのをきっかけに長野県が好きになり、小布施町に移住して新規就農しました。現在は、プルーン、ぶどう、りんごなど果樹をメインに農業をしています。農閑期には保健師として、赤ちゃん訪問や特定保健指導なども行っています。

Q4：協力隊の経験は今どう活かしていますか？

農業の仕事は何もないところから0からのスタートでした。夫もコンピューター関係の仕事をしていたので農業とは無縁でしたが、里親さんに指導を受けながらやっています。初めは、知り合いもないし、農地もないし、ないないづくしの生活でしたが、協力隊での経験を活かし、周りの人達に助けをいただき、人とのつながりを大切にしながら農業をしています。

(彩可さん談)



阿智村在住
高坂 友三さん

平成10年度1次隊
派遣国：ミクロネシア
職種：野菜
出身：阿智村



高坂つかささん
(旧姓：日下部)

平成10年度2次隊
派遣国：タイ
職種：野菜
出身：愛知県



Q1：協力隊員となったきっかけは？

中学生の頃に読んだ砂漠緑化の新聞記事で、環境問題での国際協力に興味を持ちました。大学卒業後は、農業支援、環境保全の支援活動などを行っているNGOで働いていました。海外の現場で何か自分が役立てることはないかと思い、協力隊へ応募しました。

Q2：派遣国での活動や生活はいかがでしたか？

太平洋にあるミクロネシアに派遣されました。気候も穏やかで、過ごしやすかったです。派遣された職業訓練校では、15歳から20歳くらいの学生に、座学と実習で野菜づくりなどを教えていました。島の生活では野菜があまり身近ではなかったので、栽培もできるだけ簡単にして栽培から食べるところまで教えることに力を入れていました。生徒は周辺の島々から集まっていたので、学校自体が異文化交流の場でもあり、授業後のサッカーなどいろいろ楽しかったです。



ミクロネシアの畑

Q3：現在のお仕事について教えてください。

地元の阿智村に戻って農業をしています。妻も協力隊OGと一緒に有機農業をしています。地域では農家は減る一方なので、研修生を受け入れたりして、少しでも農業に携わる人を増やしていけるよう努力しています。WWOOFという制度で、海外からの農業体験者も受け入れています。

Q4：協力隊の経験は今どう活かしていますか？

チャレンジしていこうという気持ちは協力隊のころから今も続いている気がします。現地では自分の立ち位置・仕事のやり方・成果など日々悶々としながらも、少しでも良くしていこうと頑張っていました。今の農業経営でも現状を少しでもよくしていきたい、まだまだいろいろな活動してみたいなど、これからもチャレンジし続けていきたいと思っています。

(友三さん談)



2/3

2016年度第4回帰国報告会

JICA駒ヶ根にて青年海外協力隊帰国報告会を開催しました。2014年度3次隊で帰国された以下の3名が発表し、一般参加者や訓練生を含む35名の聴講者がありました。発表からは困難も多い中、3名が任国を好きになって帰国したことが分かりました。

- ・山越 さゆりさん(派遣国:ボリビア、職種:臨床検査技師)
- ・高橋 未来さん(派遣国:ペルー、職種:観光)
- ・甘利 琢磨さん(派遣国:ヨルダン、職種:作業療法士)



次回の帰国報告会は4月28日(金)18:45~20:30に駒ヶ根青年海外協力隊訓練所で実施します。

4名の帰国隊員が、一人20分間ずつ発表の予定です。

〈予定者の派遣国・職種〉

■ネパール・行政サービス ■チリ・コミュニティ開発 ■ガーナ・PCインストラクター ■バヌアツ・小学校教育

皆様のご参加をお待ちしております。

2/10

3/8

中小企業向けのセミナーを開催

2月10日(金)上田市の信州大学繊維学部内ARECにて「ODAを活用した中小企業海外展開支援事業紹介セミナー in 上田市」を開催。出演者を含め40名を超える方に参加いただきました。セミナーでは、信州大学繊維学部の産学官連携機関ARECの加盟企業で、ラオスでJICAの事業を実施いただいた上田市の松山株式会社の太田取締役様に報告いただきました。同じくAREC加盟企業で、昨年11月に実施した「JICA駒ヶ根 民間連携事業 スリランカ視察調査団」参加メンバーの立科町の株式会社小宮山土木の小宮山代表取締役様に報告いただきました。



上田市でのセミナーでの松山株式会社太田取締役の発表

また、3月8日(水)松本市のホテルモンターニュ松本にて「ODAを活用したアジア、アフリカビジネス展開セミナー」を開催。こちらも出演者を含め約30名にご参加いただきました。セミナーでは、アフリカでJICAの事業を実施いただいている安曇野市の株式会社細川製作所の茂原室長、伊那市の株式会社ジャパンバイオファームの小祝代表取締役様に事例発表いただきました。

JICA駒ヶ根では、2017年度も県内各地で中小企業向けのセミナーを開催する予定ですので、ぜひご参加ください。

2/25

2/26

語学交流会・クロスカルチャーディイベント@駒ヶ根

2月25日、語学訓練の一環で、海外からのゲストをお招きし、語学交流会を行いました。主なゲストはJICA関西からの研修員で、候補者が派遣される国の方もいました。任国の方と会話でき、また違ったイントネーションに触れて勉強になった等の声が、多くの候補者から寄せられました。

語学交流会の翌日は、クロスカルチャーディを実施。このイベントは、季節ごと様々な表情を持つ駒ヶ根のいい所をたくさん味わっていただき、「国際協力の町 駒ヶ根市」を広めようと、地元の方々と実行委員会を作り、実施しています。

今回は、JICA関西からの研修員(ソロモン・インド・パプアニューギニア・マリ・ブルキナファソ・カメルーン・ウズベキスタン・ネパールの合計12名)と市民のみなさま、現在訓練中のボランティア候補者と合わせて約60名で開催しました。

たかすやファーム葛園での葛狩り、東伊那公民館での絵手紙作成、押し花体験、まゆクラフト作成、お餅つきやおやき作り体験と内容盛りだくさんでした。昼食には、地元の食材を使用した料理と出来立てのお餅を皆で和気あいあいいただき、日本文化や食文化を通して国際交流を図ることができました。

次回は、5月に開催予定です。



JICA駒ヶ根 中小企業海外展開支援



ザンビアで指導するジャパンバイオファームの小祝社長

JICAの2016年度第2回中小企業海外展開支援事業の採択企業が、1月26日に発表になりましたが、長野県内からも佐久市のエフビー介護サービス株式会社が基礎調査に、須坂市のオリオン機械株式会社が普及・実証事業に採択されました。

これで長野県内の採択企業は、別表の通り、6社となりました。

2012年に開始したJICAの中小企業支援事業も徐々に県内の中小企業の皆様に認知されてきました。JICA駒ヶ根では、今後も長野県や県内の中小企業支援機関と協力しながら、多くの県内の中小企業の皆様にJICAの中小企業海外展開支援事業を活用いただける様、活動して参ります。

JICA中小企業海外展開支援事業の県内企業採択実績

会社名	所在地	実施国	実施内容
松山株式会社	上田市	ラオス	代かき機など農用作業機械の現地生産・販売の可能性調査
株式会社信州セラミックス	大桑村	ベトナム	院内感染予防に向けた医療用抗菌システム普及案件化調査
株式会社ジャパンバイオファーム	伊那市	ザンビア	土壌分析に基づき鶏ふん化成混合肥料を使用する農業技術の普及・実証事業
株式会社細川製作所	安曇野市	ウガンダ	農村部の所得向上を目的としたコメ用石抜き機導入の案件化調査
エフビー介護サービス株式会社	佐久市	タイ	介護施設運営・福祉用具・人材育成事業の有効性、採算性調査
オリオン機械株式会社	須坂市	タイ	自動洗浄機能付き搾乳システムによる品質向上に関する普及・実証事業

草の根技術協力事業

高齢者ケア専門家6名がタイで技術指導しました

3月上旬、「タイ、チョンブリ県における町ぐるみ高齢者ケア、包括プロジェクト-サンスク町をパイロット地域として」(提案自治体: 佐久市・実施団体: 学校法人佐久学園佐久大学)の高齢者ケア専門家6名がタイの協力現場で技術指導を行いました。



リハビリテーション方法を指導している専門家の神津さん

駒ヶ根市から提案された事業が採択されました!

3月下旬、前事業の継続版「ポカラ北部における住民参加型地域保健活動を軸とした持続可能な母子保健」(提案自治体: 駒ヶ根市・実施団体: ネパール交流市民の会)が採択されました。プロジェクトマネージャーの北原照美さんは「現場の社会的、経済的に弱い立場の人々に支援の手が届くようにしたい。幅広い世代がポカラを支え、活動を通じて駒ヶ根が元気になるような取り組みを続けたい」と語っていました。

JICA長野デスクの窓から♪

●JICA信州国際塾・グローバルバスツアー開催!

3月24日(金)、「信州国際塾グローバル・バスツアー」が開催されました。

今年度の行先は「JICA横浜 海外移住資料館」です。まずワークショップで移民することになった子供になり



きて、様々なハプニングにどう対応するかを真剣に話し合いました。初めて会う人と同じグループになり、様々な意見を出しあい、普段考えないようなことを考えることで、刺激的な時間となったようです。

海外移住資料館では4名のボランティアスタッフが、1時間ほど資

料の説明をしてくださいました。時間がたつぷりとれなくてごめんなさい!

資料館の後は、赤レンガ倉庫で過ごすコースと、シーバスに乗って山下公園に移動し、氷川丸を見学するコースに分かれました。

長野からは往復600kmを超える長い旅でしたが、早朝から夜まで、皆さんが熱心にお話を聞いてくださり、楽しんでくださって、スタッフ一同とても感謝しています。

これをきっかけに世界のことをもっと知っていただけたら嬉しいです。

大きなトラブルもなく、皆さんのご協力で楽しいツアーになりました。

どうもありがとうございました!



2017年度 JICAボランティア募集中です!

- 青年海外協力隊
- シニア海外ボランティア
- 日系社会青年ボランティア
- 日系社会シニアボランティア



JICAボランティアの春募集期間は3月31日から5月10日(締切)です。長野県内では、4月1日から募集説明会が行われています。4月23日(日)には、駒ヶ根青年海外協力隊訓練所で一日体験入隊が行われます。前回より好評の面接担当者による「模擬面接」、「応募用紙の添削指導」などのプログラムを実施します!!
また「語学体験講座」、「協力隊OBの体験談」等のプログラムで、今すぐに応募は…、という方にも楽しめる内容となっております。

● 4月23日(日)午前10時～午後4時15分(予定) 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所(一日体験入隊)
※事前申し込み必要・先着順。詳しくはJICA駒ヶ根のホームページへ

協力隊員
現地レポート
from パラグアイ
みやした ちおり
宮下 智織さん
平成27年度3次隊
職種:小学校教育
安曇野市出身



Mbá é ichapa?(バエイシャパ。グアラニー語で「元気ですか」)私の任地、パラグアイは中南米で唯一のバイリンガル国で、スペイン語とグアラニー語の二言語が公用語。多くの人が両方を混ぜてしゃべっていて、これを「ジョパラ」と呼んでいます。覚えてのグアラニー語を使ってしゃべってみると、みんな大喜び。自分たちの言語をとっても大切にしています。



中学生との集合写真

私が配属先の学校でやっている主な取り組みの一つが「ごみゼロ運動」です。この学校の校長先生の「日本の学校のように校内にごみ一つも落ちていない学校を目指したい」という一言

から始まりました。去年、まず行ったのが「ごみ箱づくり」。校長先生が中心になってたくさんの人が協力してくれました。先生方は自分たちで作ったお菓子を保護者や子どもたちに売って資金集めをしてくださいました。その後、学校近くの



校長先生とごみ箱を作っている写真



環境教育の授業の写真

鉄加工所でごみ箱を取り付ける枠を作ってもらい、近所の人たちからはごみ箱に使うプラスチック容器をもらいました。色々な人の力を借りてやっと思えた活動です。今年は、小中学生と一緒にごみの分別やリサイクルについても少しずつ取り組んでいきたいと思っています。任期もあと1年を切りました。支えてくれる人たちに「ありがとう」の気持ちを忘れずに活動したいと思います。

帰国したJICAボランティアの方

2年間の活動
お疲れ様でした!!



平成26年度3次隊

たかはし みき
高橋 未来さん
(佐久市)

● 派遣国:ペルー
● 職種:観光

協力隊の二年間で「他人の靴を履く」事の大事さを学びました。これはスペイン語の諺で「他人の立場に立って物事を考える」という事です。

私はペルーのパチャカマック遺跡博物館に観光隊員として派遣されました。活動の一つとして遺跡周辺の貧困コミュニティに住む女性達の雇用創出を目的としたお土産品開発プロジェクトを同僚と共に担当し、運営や研修会の



女性グループ SISAN はケチュア語で「花が咲く」という意味。ブレインカ時代に用いられていた技術で染物を練習中。ただいま新商品作りに奮闘中。

サポートを行っていました。無料の研修環境や手厚い支援があるにも関わらず出席率が悪く、彼女達はやる気がないのだと思っていました。しかしある時メンバーの一人が、自分は障害を持つ娘を抱え家を離れることが難しく、博物館へ行く交通費を捻出するのも大変だと漏らしました。その時、私は彼女達の立場に立って考えられていなかった事に気づかされ、自分自身を情けなく思いました。他のメンバーも経済状況が苦しく家を離れる事が難しい状況にある事が分かりました。その後、各々の家庭で製作できるように環境作りの工夫をする等、彼女達の立場に立ったサポートに切り替える事ができました。



グループの女性が商品の在庫管理を学んでいる様子。自立した運営ができるようにサポートをしている様子。

相手の靴を履いてみる事で見える景色が変わり、相手が本当に求めているものが見えてくることを学べた貴重な協力隊活動でした。

